

「ゆい」で紡ぐ健康高原都市構想（案） 自立と持続が可能なまち・茅野モデルの創出

目指すまちの将来像

データと先端的服务により、市内に健康で安心・安全に暮らす人が増え、その人の力が「ゆい」でつながりまちの力になり、市内で生まれた人の力の輪が、大きな「ゆい」の輪として市外に広がり、より大きなまちの力を紡ぎ自立と持続を実現する健康高原都市

「ゆい」（結）の定義

- ・「ゆい」は、この地域に古くから伝わる、**人と人とのつながり、支え合い**を意味する言葉です。
- ・例えば、田植えや稲刈りなど多くの人の力が必要な作業を、「お互いさま」の気持ちで、隣近所や地域の住民が総出で**助け合い、協力し合う**ことなどを指します。
- ・人口減少、少子高齢化等により**地域の人と人との関わりが少なくなってきた**昨今、**新型コロナウイルスの感染拡大**が、**人や地域の分断に、より一層拍車をかけています。**



茅野市では、**データと先端的服务**により、この地域に息づく**「ゆい」**を**現代に復活**させ、**地域課題の解決**を通じて、まちの将来像の実現を目指します。

1 健康をテーマにする背景と狙い

- ・ 八ヶ岳の豊かな自然に囲まれた蓼科は、古くから**静養地**として栄え、映画監督の小津安二郎など多くの文化人が滞在し、創作活動を行う中で、質の高い文化を発信してきました。
- ・ 茅野市では、約40年前から、地域医療を支える**諏訪中央病院**を中心に、**在宅医療**や**在宅看護**に取り組んできました。
- ・ 約20年前には、市民団体「**福祉21茅野**」が発足し、行政計画である「**福祉21ビーナスプラン**」に基づき、**国と連携しながら、全国に先駆けて地域包括ケアシステムを確立**しました。
- ・ このプランは、2018年から第3次の計画期間がスタートしており、21世紀の福祉を見据えた**保健・医療・福祉の連携**を継続的に進めています。
- ・ こうした取組の背景には、地域全体がつながり、支え合う「**ゆい**」が存在してきました。



茅野市には、健康をテーマとした取組を効果的に推進する**素地**があります。

健康は、すべての人に共通する**普遍的なテーマ**であり、
地域課題の解決に当たり、**他の取組と連動**させることで、その**効果を高める**ことが期待されます。

2 茅野市スーパーシティ構想策定の考え方

スーパーシティ構想の概要

- ・国が、区域を指定し、その区域内において従来の規制を大幅に緩めることにより、以下のような要件を満たす「**まるごと未来都市**」の実現を目指す**国家戦略特区**の一つです。

- ①個別分野限定の実証実験的な取組ではなく、例えば、決済の完全キャッシュレス化、行政手続のワンスオンリー化、遠隔教育や遠隔医療、自動走行の域内フル活用など、**幅広く生活全般をカバーする取組**であること。
- ②一時的な実証実験ではなくて、2030年頃に実現され得る「ありたき未来」の生活の先行実現に向けて、**暮らしと社会に実装する取組**であること。
- ③供給者や技術者目線ではなくて、**住民の目線でより良い暮らしの実現**を図るものであること。



- ・**より良い暮らしを実現**するために、様々な住民へのサービスから得られる**データの連携が条件**になっています。
例 タクシーの配車予約と病院の通院予約のデータ連携

第2次茅野市地域創生総合戦略の横断的施策に掲げる
「**暮らしやすい未来都市・茅野の構築**」の実現に向けた様々な取組を
茅野市の強みを活かしながら**一体的に推進**するための一つの手段として、
茅野市スーパーシティ構想を策定します。

3 茅野市の行政計画における位置付け

第5次茅野市総合計画 (市の最上位計画)

人口減少、少子高齢化に立ち向かう**政策横断プロジェクト**に
第2次茅野市地域創生総合戦略を位置付けています。



第2次茅野市地域創生 総合戦略

第2次茅野市地域創生総合戦略のコンセプト「若者に選ばれるまち」実現
のための**横断的施策**に「暮らしやすい未来都市・茅野の構築」を位置付けています。



「暮らしやすい未来都市・茅野の構築」の実現に向けた様々な取組

抜粋 { 未来に向け、日々進歩する先端の技術を活用することで、市民目線で暮らしやすいまちの構築に向けて
思い切った取組を展開します。 }

×

茅野市の強みである**健康**（ウェルネス）をキーワードにした取組

||

茅野市のスーパーシティ構想

「ゆい」で紡ぐ健康高原都市構想

⇒ 人口減少に立ち向かうための政策効果の向上、「若者に選ばれるまち」実現の加速化

4 現状把握

(1) 茅野市の強み

- ・ 茅野市は、**八ヶ岳**に象徴される**豊かな自然**と**冷涼な気候**が特徴の**高原都市**です。
- ・ 市内には、茅野市に住民票を置く「**地元市民**」に加え、観光地の中に広がる別荘に滞在する「**別荘市民**」、観光や余暇と仕事を両立し生産性向上を図る“新しい働き方”実現のために訪れる「**交流市民**」等、様々な「**市民**」が生活しています。
- ・ 特に、市内に**約 1 万戸ある別荘**には、**豊富な経験や深い知見を持つ「別荘市民」が多く滞在し**、質の高い文化を発信するほか、地域での消費等により**まちの経済も支えてきました**。
- ・ 「**地元市民**」の「**ゆい**」をベースとした「**福祉 2 1 茅野**」の取組により、**地域の健康を見守る体制**が確立されています。

(2) 問題点

- ・ 他自治体同様に**人口減少、少子高齢化**が進展しており、**地域の健康を支えてきた「ゆい」のマンパワー不足**も見られる中、**高血圧の人の割合が県内 1 9 市の中で最も高くなっています**。
- ・ JR茅野駅のある市街地・居住地、観光地、別荘地の**3 つの地域の距離が離れていること**や、それぞれの「**市民**」の**考え方や価値観等の違い**により、「**市民**」が**市内を行き来すること**や、「**市民**」**同士の交流も少ない状況**です。
- ・ **所有者の高齢化**や、**後継者不在による別荘の空き物件化が進み**、「**別荘市民**」の**数が減少**するとともに、**地域との往来も少なくなっています**。

(3) 社会情勢

- ・ コロナ禍において、これまで**東京に一極集中していた人の流れが、新しい働き方やライフスタイル、また、リスク回避や安心・安全な日常等を求めて、少しずつ地方に向き始めています**。
- ・ その人の流れを呼び込もうと、**全国の地方都市が競って様々な事業を展開しています**。

5 地域課題と取組テーマ

地域課題

- ・ コロナ禍において、「市民」の健康へのきめ細やかな対応の実現等を通じた、「福祉21茅野」の取組の再構築により、マンパワー不足を解消した新しいまちの「ゆい」の仕組みを構築する必要があります。
- ・ 「市民」を市内に循環させ、人のつながりや経済効果を生み出すため、市街地・居住地、観光地・別荘地の3つの地域をシームレスにつなぐ公共交通ネットワークを整備するとともに、人と人をつなげたり、消費を喚起するための仕組みやきっかけづくりが必要です。
- ・ 別荘の利用者や観光地の来訪者、滞在者の増加や、空き別荘を解消するため、健康や安心・安全をキーワードに、恵まれた自然環境を活かした、これまでとは違う切り口による高付加価値で魅力ある過ごし方を提案する必要があります。

取組テーマ

データ利活用型地域包括ケアシステム
次世代「福祉21茅野」の構築

人の交流や経済の循環を促す
基盤の構築

次世代静養地の構築

全国のあらゆる自治体が地方創生を目指す中、地域課題は一定程度共通しています。そこで、取組の推進に当たっては、こうした茅野市の地域課題の解決を図る視点だけではなく、**現状の限られた地域のリソース（ヒト、モノ、カネ）のみでまちの自立**を図る視点も取り込み、茅野市と同規模の地方都市への展開を目指します。

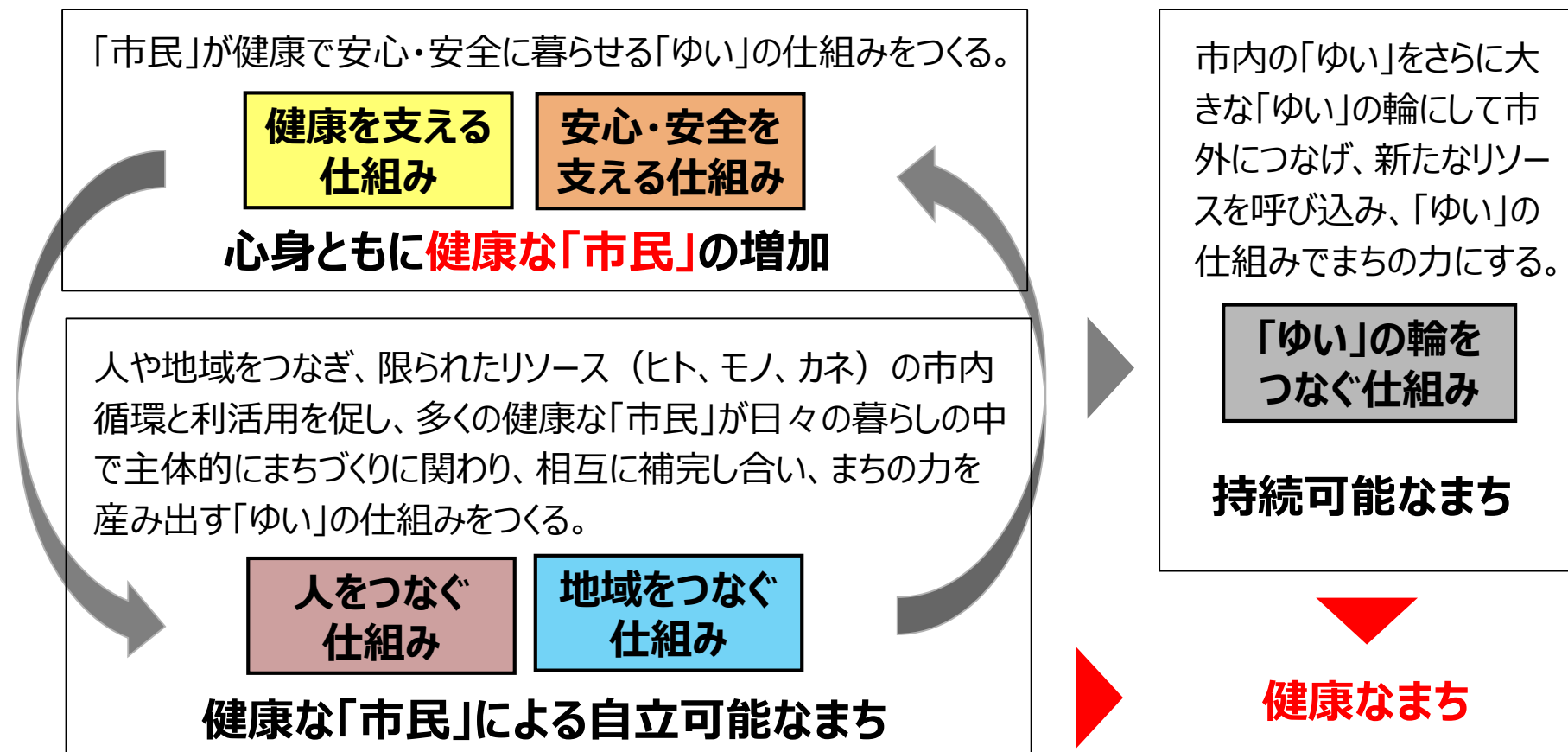
健康と安心・安全をキーワードに、「ゆい」の考え方を取り入れた
自立と持続が可能な地方都市のモデルケースの創出を目指します。

6 取組方針と取組の流れ

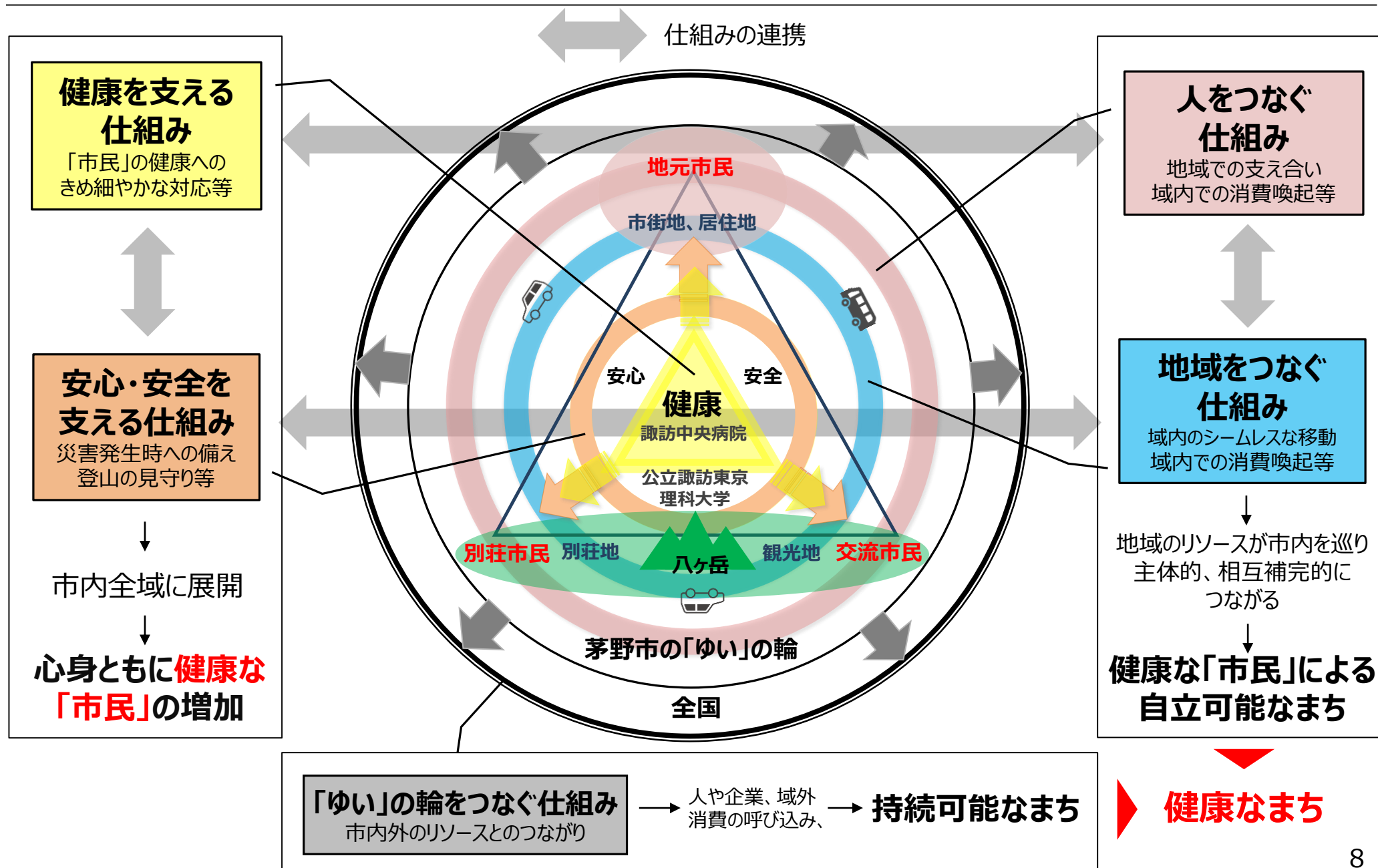
(1) 取組方針

データと先端的サービスにより、**健康と安心・安全をキーワード**にあらゆる要素をつなぎ、**健康なまちづくり**に活かす**新しい「ゆい」の仕組み**を構築する。

(2) 新しい「ゆい」の仕組みを構築するための取組の流れ



7 「ゆい」で紡ぐ健康高原都市構想の全体図



8 データ活用ポリシー

基本的な考え方

- ・ スーパーシティ構想における「まるごと未来都市」では、**区域内で提供される様々なサービスで得られるデータ（個人情報）を連携**させて、住民のより良い暮らしの実現を目指しています。
- ・ 基本的に、**個別のサービスは民間事業者が行い、データをつなげる基盤（データ連携基盤）の整備は自治体が事業主体**となり、**民間事業者が受託事業者として行う**予定です。
- ・ データ連携基盤は、**国が示す仕様に基づき、セキュリティーの高いシステムを構築**します。
- ・ 個人情報は、**個人の同意なしでは活用できない仕組み**とし、個人情報保護法をはじめとする**法令**や、茅野市個人情報保護**条例**に基づいた運用を行うなど、**個人情報の取り扱いには万全を期**します。








こうした考え方を踏まえ、データ活用ポリシーを以下のとおり定めます。

データ活用ポリシー

「ゆい」 one for all 、all for one ～一人がみんなのために、みんなが一人のために～
一人のデータが市民みんなの暮らしを豊かにし、市民みんなのデータが一人の暮らしを豊かにする。

9 仕組みを実現するための要素事業とその概要

仕組み	健康を支える 仕組み	安心・安全を 支える仕組み	人をつなぐ 仕組み	地域をつなぐ 仕組み	「ゆい」の輪を つなぐ仕組み
要素事業（概要と効果）	医療・介護 「市民」に寄り添うデータ 利活用型地域包括ケア システムとして、次世代 「福祉21茅野」の構築  健康に向き合う 「市民」の増加	防災・見守り ・河川水位等のデータを 統合した災害発生リスク の把握 ・登山等の見守り体制 の構築  安心・安全な暮らし、 アクティビティの提供	地域活性化 「市民」の支え合い、助け 合いや、「市民」の経済活 動等をつなげ、地域の力 にする「ゆい」を促進  地域経済と地域コ ミュニティの活性化	移動 日本初の相乗り前提のラ イドシェアシステム「のらざ あ」により距離の離れた地 域間をつなぎ、移動の自 由にコミット  シームレスな移動で様々な サービスを高付加価値化	交流・滞在 八ヶ岳や蓼科の自然と、 最先端の健康増進サービ スや農業IoT等を組み合 わせた高付加価値な別 荘滞在やウェルネスレ ワークを実現  リフレッシュ効果と 生産性の向上
サービス 技術	・ベッド、ウェアラブル端末 ・デジタルナース	・国産LPWA	・地域ポイント、キャッ シュレス	・AIオンデマンド、ハブ & スpoke	・次世代静養地 ・農業IoT
都 EOS	All in one アプリ 市内のあらゆるサービスの利用、決済等が市内外から可能なアプリを提供				
	データ連携基盤 「ゆい」データ 各要素事業で収集したデータを連携				

それぞれの仕組み（要素事業）を組み合わせた高付加価値な先端的サービス